

審査の結果の要旨

氏名 蔣 敏

中国の都市は、計画経済から市場経済への移行に伴い、この40年間に大きな変化を遂げてきた。とりわけ公共空間はその本質から変化し、そこに現れる公共性自体が再解釈されてきた。本論文は、そうした背景のもと、中国市場経済改革下における都市公共空間に見られる公共性の変容を、重慶市渝中区の3つの都市公共空間を事例として明らかにすることを目的としている。

本論文は10章から構成されている。

第1章では、研究の課題、目的が説明されている。既往研究の整理および中国市場経済についての概説が行われたのち、3つのリサーチクエスチョンが提示されている。つまり、(1) 西欧起源の都市公共空間における公共性の概念が、中国古来の「公」(gong) 概念とどのように関係づけられながら中国に導入されたのか、(2) 中国における市場経済改革は、その都市の形態や都市公共空間のありようにどのような変化をもたらしたのか、(3) 都市公共空間の公共性は市場経済改革によって、いかなる理由でどのように変化したのか、である。

第2章では、研究の方法が説明されている。リサーチクエスチョンに対応した仮説に基づき、歴史的検証、現地調査、事例調査などの研究手法の適用の検討が行われている。

第3章では、理論的な枠組みが構築されている。公共性や都市公共空間に関する主に西歐的な文脈における既存の主要理論の整理をもとに、核となる価値、性質を抽出している。その上で、都市公共空間における公共性の分析の視点として、デザインと建設、ガバナンスとマネジメント、使い手と用途の3つを設定している。

第4章では、現代中国における都市公共空間の公共性について、中国の伝統

的な「公」概念を対照しながら、議論を行っている。この 20 年ほどの間の公共性の変容を、市場経済改革における土地の商品化、政治経済の分権化、余暇・消費文化の普及という方向性を手掛かりに分析している。その結果、「公」は、西欧起源の公共性とは異なり、トップダウンの統治に根差した権威性、「私」に対する道徳的優位性、一方で「公」と「私」との境界の曖昧さという性質に規定されていること、これらの性質が市場経済改革下において緩和される方向にあること、とりわけ私的関心や欲望がより積極的に位置づけられ、公私の境界も明確化されてきていることが明らかにされている。

第 5 章では、対象事例である重慶市および渝中区について、歴史、地理、伝統的都市形態、文化、経済の側面からその固有の文脈を明らかにしている。渝中区の都市公共空間は、1949 年以降、二つの段階を経て展開してきた。計画経済下においては、主に 1950 年代に多様な機能を有した公園が整備されるなど、特に緑化率に重きが置かれた。市場開放後は、都市公共空間整備はマスタープランと都市デザインによって導かれ、より多くの機能、形態を持つようになった。とりわけ、市場経済は民間資本の都市建設への参入を促し、商業地における私有公開空地をはじめとする新しい都市公共空間が誕生した。

第 6 章から第 8 章では、それぞれ、鵝嶺公園 (Eling Park) , 重慶人民広場区域 (Chongqing People's Square Area) , 解放碑商業歩行街区 (Jie Fangbei Commercial Pedestrian District) を対象とし、計画経済下から市場経済下にかけて、どのように公共性が変化したのかを詳細に検討している。

第 9 章では、これら 3 つの事例を比較することで、公共性の変容についての総合的な考察を行っている。都市公共空間の変容は、経済の着実な成長に対する経済的動機、公害防止と持続可能な開発に関する環境的動機、拡大する社会的格差の修正による社会的結束という社会的動機、国際文化の導入と伝統文化の発展によるアイデンティティ構築に関わる文化的動機といった市場経済時代における 4 つの異なる一般的な動機と基本的に関係している。各動機の影響度合いは 3 つの都市公共空間で異なっていた。また、1997 年の自治体の指定にともなう政治的力学が、全ての変容の重要な触媒としての役割を果たした。計画経済下の状況と比較して、漸進的で現在進行形の市場経済改革は、これまで重慶の都市公共空間の公共性を明らかさまに損なわず、以前よりも活気のある公共の領域をもたらした。都市空間の商品化と消費者文化の発展は、地方政府と公的機関の効果的な指導とコントロールのために、必ずしも公共性を失う結果にはならなかった。

第10章では、前章までで明らかにした事項について、整理を行い、リサーチクエスチョンに対する回答を行っている。加えて、今後の都市計画、都市デザインに対する提言を行っている。

以上のように、本論文は、中国における公共空間およびその公共性研究として、市場経済と直接結びつく新規開発における私有公共空間ではなく、計画経済下から存在する都市公共空間に着目し、歴史的な視点から公共性の変容、ないしは現代における公共性の特徴を描き出した点に独自性が認められ、高く評価される。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。